

記者発表資料

令和5年4月14日
(一財)先端建設技術センター

～2018年以降、最も注目された新技術開発は「構造物調査」～

(一財)先端建設技術センター(理事長:佐藤直良)は、2018年から2021年の土木・建築関係の専門誌・雑誌・新聞等36種類から、新技術に係る記事を集計・分析し、最新の技術開発の動向を把握しました。

その結果、収集件数336件中、インフラの点検・調査技術に資する「構造物調査」が最も多く、全体の1割以上を占めました。

次いで、生産性向上や労働者の省人化に資する「情報化施工」、リニア建設などの山間部の新設道路に資する「トンネル(NATM)」が上位を占めました。

(別添「新技術情報収集の試行について」参照)

2023年度以降も引続き分類の見直しを含めて集計・分析する予定です。

(収集結果の概要)

- ・収集・分析対象期間 2018年4月～2022年3月
- ・収集対象 技術として成立していない検証中や今後検証予定のものを含めた新技術
(NETIS登録済みなどの既に確立された技術は対象外)
- ・収集方法 土木等を専門とする職員が新聞5(2021年4月から4)紙・31雑誌等から継続的に情報を抽出
- ・分類方法 NETISの分類を使用

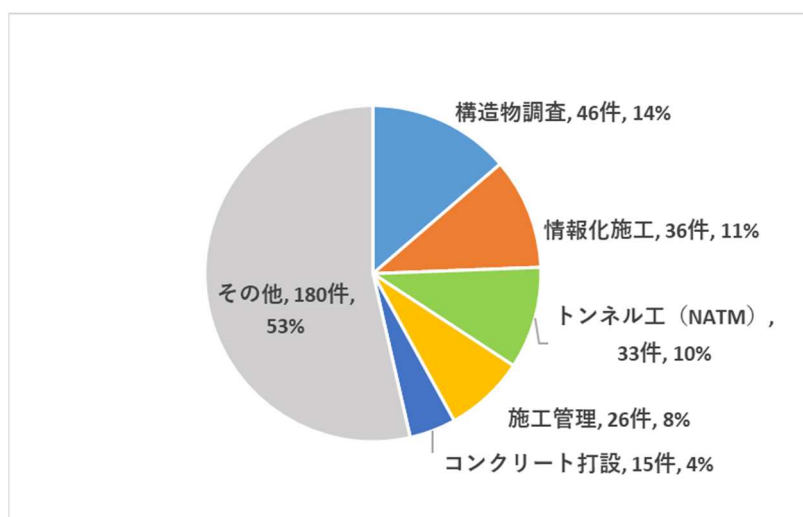


図-1 記事件数が多い分類(ベスト5)

【問い合わせ先】

一般財団法人 先端建設技術センター 技術調査部 次長 関根 保弘
直通 03-3942-3993